

2025年度 まちだ市民大学HATS事業計画(案)

			事業計画												見直しの留意点		
役割	企画	名称	2024年度						2025年度予定						2024年度 見直し・変更点	2024年度10月までの現状	2024年度の課題 への対応・見解 2025年度見直しの視点
			実施時期	回数	会場	定員	資料代	土日祝日・夜間の実施	実施時期	回数	会場	定員	資料代	土日祝日・夜間の実施			
1 学びの裾野を広げる	プログラム会議	自然	前期：4～6月 後期：10～12月	各5回	市内各地域	各30名	各1,500円	日	前期：5～6月 後期：10～11月	各4回	市内各地域	各30名	各1,000円	日	・2023年度までは通年講座として実施していたが、途中から講座に来なくなる受講生が多く、出席率の低下が目立っていた。このため、前期・後期の2回に分けて募集を実施し、気軽に参加しやすくする。 ・前期受講生は後期受講の優先対象とすることで、通年参加のニーズにも応える。	・講座開催期間は短い、最終回まで出席する受講生の割合は、2023年度（通年講座）よりも高かった。 ・フィールドワークは天候に左右される。代替の室内プログラムを併せて用意するなど柔軟に対応するには、指導団体に負担がかかる。	・引き続き、前期・後期の2回に分けて募集を実施し、気軽に参加しやすくする。 ・前期受講生は後期受講の優先対象とすることで、通年参加のニーズにも応える。 ・6月は悪天候が多いため、長時間歩くプログラムは、極力5月までに実施する。
		歴史	前期：5～7月	前期：5回	前期：生涯学習センター	前期：50名	1,000円	－	前期：5～7月 後期：10～11月	各4回	町田駅周辺（ぼっぽ町田、文化交流センター、中央図書館、市民文学館）ポプリホール・・・等	各50名	各1,000円	－	・2024年度はテーマ史を題材にする。 ・生涯学習センター休館期間は、連続講座を実施せず、まちだ史考会との共催で単発の現地学習や講演会を実施する。	・後期に関係団体と連携して講師育成の機会創出を試みたが、想定したような成果は得られなかった。 ・修了後の地域での活動が、まちだ史考会への参加以外の選択肢を示せなかった。 ・募集定員50名を充足する応募があった。 ・受講生のほとんどが60代以上であった。	・引き続き、テーマ史を題材にする。 ・修了後の地域での活動について、複数の選択肢を提示する。 ・高齢者が参加しやすい場所、時間帯で実施する。（→対象者を特定し、東京都補助制度の活用を図る）
		人間	前期：5～7月 後期：10～12月	各4回	前期：生涯学習センター 後期：鶴川市民センター	前期：100名 後期：36名	各1,000円	前期：夜間	前期：5～7月 後期：10～11月	各4回	前期：町田駅周辺（ぼっぽ町田、文化交流センター、中央図書館、市民文学館）後期：なるせ駅前市民センター	各30名	各1,000円	前期：夜間	・学びの入口を広げるため、前期は生涯学習センターのホール、後期は市民センター等（アウトリーチ）で実施する。 ・公開講座では、録画配信や保育のオプションを付けることで、幅広い層が受講しやすい環境を整える。	・前期の受講対象者は生産年齢層を想定したが、実際の受講者は70代が中心であった。 ・前期は定員を増やしたところ定員を満たさなかったが、例年に近い54名の受講者が集まった。 ・後期は保育の申込が1名である。	・前期は生産年齢層への周知に力を入れる。 ・早期からの子育てサイトへの掲載を始め、周知に力を入れる。 ・講座の内容が正しく伝わるよう、周知内容を工夫する。 ・保育の需要が少ない（2024年度は定員5人中1人）可能性があるため、講座内容との関連も含め再検討する。 ・公開講座では、録画配信や保育のオプションを付けることで、幅広い層が受講しやすい環境を整える。
		健康	前期：5～7月 後期：10～12月	各4回	前期：生涯学習センター 後期：南市民センター	各45名	各1,000円	後期公開講座のみ：土	前期：5～7月 後期：10～11月	各4回	前期：忠生市民センター 後期：町田駅周辺	各30名	各1,000円		・学びの入口を広げるため、前期は生涯学習センターのホール、後期は市民センター等（アウトリーチ）で実施する。 ・公開講座は、メンタルヘルスなど幅広い層の関心が集まるテーマで、オンライン（録画配信）でも行う。	・前年度までのプログラム（高齢者向け）と同じと思いこんで応募した受講者の一部については学習ニーズとのミスマッチによる、途中離脱があった。 ・主な受講対象として想定した子育て世代（40代）の参加の講座満足度が高かった。 ・公開講座は、メンタルヘルスなど幅広い層の関心が集まるテーマで、オンライン（録画配信）でも行う。	・引き続き、前期は子育て世代向け、後期は高齢者向けとする。（→対象者を特定し、東京都補助制度の活用を図る） ・早期からの子育てサイトへの掲載を始め、周知に力を入れる。 ・講座の内容が正しく伝わるよう、周知内容を工夫する。 ・公開講座は、メンタルヘルスなど幅広い層の関心が集まるテーマで、オンライン（録画配信）でも行う。
3 学びを深め、活かす	プログラム会議	福祉	前期：5～7月 後期：10～11月	各6回	前期：生涯学習センター 後期：市民フォーラム等	各20名	各1,500円	夜間	前期：5～7月 後期：10～11月	各5回	なるせ駅前市民センター 町田駅周辺・・・等	各20名	各1,500円	夜間または土日	・修了後、さらに地域に活動の場を広げたい方向けの学習ステップを検討する。	・前期・後期ともに受講人数が定員の半数程度に留まった。 ・前期は体験やワークショップを重視したプログラムの内容を評価する声が複数あった。 ・一方、ボランティアへの参加を想定していない方からは、ハードルが高いとの声もあった。	・2024年度は主なテーマであった障がい福祉以外（高齢者福祉や児童福祉等）でのプログラムを検討する。 ・前半に教養型（座学）を1～2回実施し、受講しやすいプログラムにする。 ・修了後の地域活動がイメージできるようなプログラムにする。
		環境	前期：5～7月 後期：9～12月	各6回	市内各地域	各20名	各1,500円	土日	前期：5～7月 後期：9～11月	各6回	市内各地域	各20名	各1,500円	土日	・修了後、さらに地域に活動の場を広げたい方向けの学習ステップを検討する。 ・フィールドワークは天候に左右される。代替の室内プログラムを併せて用意するなど柔軟に対応するには、指導団体に負担がかかる。 ・7月は猛暑のため、保全活動体験を省略した回があり、それに対して残念がる声が多かった。	・前期は講座満足度が大変高かった。「内容が充実している」等プログラムを評価する声が複数あった。 ・フィールドワークは天候に左右される。代替の室内プログラムを併せて用意するなど柔軟に対応するには、指導団体に負担がかかる。 ・7月は猛暑のため、保全活動体験を省略した回があり、それに対して残念がる声が多かった。	・修了後の地域活動がイメージできるようなプログラムにする。 ・6月～7月は悪天候や猛暑の恐れがあるため、比較的天気の良い5月までに極力実施する。 ・後期の「まちだのまちとくらしのエコ入門」は、屋内講義や施設見学が多いため、2025年度は前期に実施する（前期・後期のプログラムを入れ替える）ことも検討する。